

平成23年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492200355	事業の開始年月日	平成22年6月1日	
		指定年月日	平成22年6月1日	
法人名	株式会社 へいあん			
事業所名	グループホーム「へいあん善行」			
所在地	(〒251-0871) 藤沢市善行2-23-8			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
定員等	認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名	
		定員計	18名	
自己評価作成日	平成24年1月21日	評価結果 市町村受理日		
			ユニット数	2ユニット

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム「へいあん善行」では認知症という不安を抱えた方たちに安心感とご自分の居場所と思える場所の提供という視点を持った介護に力を入れています。また、ご自分でできる事はご自分でしていただき、できない所はどこまでならできるのか、どこをお手伝いすればできるのか考え介護しています。外出イベントや家族会、ボランティアの受入れなどにも力を入れています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成24年2月21日	評価機関 評価決定日	平成24年6月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】
当事業所はへいあんグループが生活産業を通じて社会に貢献するために始めた5つのグループホームの一つである。小田急江ノ島線・善行駅から徒歩10分の所にある。県営善行団地に近く、お祭りや毎日の散歩に出かけられる場所にある。
鉄筋2階建ての建物には緩やかな階段とエレベーターが設置され、リビングなどの共用空間が広く、ゆったりとした造りになっている。また地域に向けて、交流スペースを用意している。
【理念に基づいたケアと心がけ】
理念に「ゆっくり、笑顔で、楽しみながら」を掲げ、利用者と職員が共感できる関係作りを目指している。特に「ゆっくり」に力を入れ、静かで穏やかな生活をしてもらえるように心がけている。また要介護度が低めの人が多いので、自分で出来ることは自分で行なえるように、一人一人に向き合って手助けしすぎないことを意識したケアを行っている。昼食は職員が利用者の好みを取り入れて献立を作り、利用者と買い物に行き、下ごしらえ、配膳、洗い物を一緒にしている。庭で作った野菜も食卓に乗せ、家庭的な生活を支えている。
【防災対策の充実】
昨年の震災の教訓から防災に力を入れている法人の指導で、非常用のバッテリーや、スピーカーを設置している。災害時に自宅から徒歩で出勤する場合の所要時間を実測するなど、緊急事態に備えている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム「へいあん善行」
ユニット名	かわせみ

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

事業所名	グループホーム「へいあん善行」
ユニット名	やまふじ

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念や法人の理念を毎朝の申し送り時に出勤スタッフで唱和している。	設立時に管理者と職員が話し合い「ゆっくり、笑顔、楽しみながら」という利用者と職員が共に目指す理念を作成している。毎朝の申し送り時に、また会議の折りに、法人の理念などと共に唱和し、確認している。開所して1年半、この理念の「ゆっくり」を中心に利用者が穏やかな生活を送れるように実践に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	GHとして自治会に加入し、自治会のボランティアさんに来ていただいたりしている。	自治会に加入して情報を得て隣接自治会の団地祭に参加している。月1回、ボランティアの二胡琴の奏者が来所したり、月2回、社交ダンスの教師が来て一人一人に指導をしている。職員の子どもが時々遊びに来てるが、今後、近所の幼稚園児とも交流出来るように取り組む意向である。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に実施していない。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今回が初回の外部評価のため未実施。	開所時から運営推進会議を3回、開催している。家族、町内会長、民生委員、市の担当者が参加し、事業所の現況、医療連携体制、避難訓練、ヒヤリハット事例などを報告し、話し合っている。また事業所の交流スペースを利用して欲しいことを伝えている。町内会長からは、避難訓練時には町内会の防災委員に知らせたいなどの要請があった。	運営推進会議を定期的に行わない、事業所や認知症について知ってもらうことや幼稚園児との交流、防災訓練への地域の方の参加など、地域と関わる活動を促進されることを期待します。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	藤沢市GH連絡会に加入しており、連携している。また普段から運営上でわからない事など、問い合わせしている。	藤沢市のグループホーム連絡会に加入しており、その研修会に参加したり、情報交換をしたりしている。この会議には市の担当者が出席するので、必要に応じて相談することが出来る。市の担当者とは介護申請、事故報告や緊急対応の事例報告、利用者の待機情報などの関連事務を通じて緊密に連携している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>年1回身体拘束防止についての研修を実施している。</p>	<p>法人の研修会やマニュアルをもとに身体拘束をしないケアを職員に周知し実践させている。夜間の転倒防止のためにベッドから布団に代えたり、センサーマットをベッドの下に置いて利用者の動きを察知したりしている。今後、ベッド内にも同じくセンサーマットを置くことを検討している。玄関や1階ユニットの入り口は施錠せず、チャイムと見守りで対応している。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>年1回身体拘束防止についてと共に虐待防止も研修を実施している。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>特に実施していない。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、解約、改定時などは文書で同意していただいている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営についてのアンケートを取ったり、訪問時に要望などを聞き取っている。職員も家族の意見を常に真摯に耳を傾けている。</p>	<p>家族会は年二回、クリスマスとケーキバイキングなどのおりに開催している。運営についてのアンケートを行ない、家族からの意見や要望を聞いている。普段から家族の来所が多く、その際には利用者の状態を報告し、個々の要望を聞いて職員と対処している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な個別面談や毎月1回のミーティングの場で意見や提案を聞いている。	毎月、フロアごとのミーティングを行ない、出された職員の意見をリーダー会議でまとめ、運営に反映させている。ミーティングの進め方や書式の改善、物品の購入などの意見を取り入れている。職員の意見により「利用者の水分補給」を研究テーマとし、実施結果を発表している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員ごとに、能力、日頃の勤務状況を加味し昇給、昇格を行っている。また、体調なども考慮してシフト組みを行うなどしている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に参加しており、また、採用になった後は1人で勤務できるようになるまでその方の能力を見ながらOJTを実施している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会に加入し交流を図っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントにて、不安を取り除くよう努めている。また、可能な方は直接来訪していただき、ホームの様子を事前に見ていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	待機の段階から定期的に連絡を取り、不安や要望などを聞き取っている。また、入居時のアセスメントの際に、家族にも聞き取りを行っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	待機の段階から定期的に連絡を取り、その時点の状態を把握し、他サービスの紹介や他事業所の空き情報の提供などを行っている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事の中で、それぞれにできる事をやっていたいでいる。また、職員はさりげなく手助けできるよう努めている。職員と利用者が支えあう関係ができてきている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態の変化などを随時報告し、利用者の希望に合わせて来訪したり電話で話したりしていただいている。来訪時には情報交換したり、利用者本人について話し合っている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	教会に通うなど、これまでの馴染みの人や場所との関係が切れないよう努めている。	利用者を訪ねて来る知人や、毎週教会へ行く際に付き添ってくれる方もいる。来所の折はリビングや居室にお茶を出し、歓談してもらっている。葉書や電話、お中元、お歳暮の取り次ぎもしている。使いなれた化粧品を買いにデパートまで一緒に出かけたり、馴染みの床屋や、美容院に職員が一緒に行ったりしている。行事で行った江ノ島では、利用者が昔を懐かしんで大変喜んでいた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1つの仕事を共同でしていただいたり、レクを一緒に行なうことで関係を作っている。他の方に食事の声かけなどをしてくださっている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もこういった状態が常に気に向け、電話にて確認したり、ご家族などにも気軽に相談していただけるよう声をかけている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	様々な事例で本人の希望や意向を聞き、出来る限る希望に添えるよう心がけている。	入居時のアセスメントや常日ごろの会話、一対一になる散歩時、入浴時に思い、意向を聞き取っている。察知が難しい人は動作や仕草、表情から、また声をかけた時の反応などから気持ちを感じ取るようにしている。昔の歌を聞きたいという人のために夜、歌番組をテレビで見られるようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにて利用者や家族から入所前の生活歴や生活環境を聞き取り、全職員が把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活を見つめながら、変化をいち早く察知するよう気配りをし、現状に合わせた援助になるようミーティング時にケースカンファレンスを行い、把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>利用者・家族に希望を聞き、また、各職員の意見やアイデアを反映したケアプランを作成している。</p>	<p>入居時のアセスメントをもとに介護計画を作成し、実施したケアの内容を毎日「支援経過記録」に記載している。毎月、利用者ごとの担当職員がモニタリングをして評価を行ない、ミーティングで話し合っている。介護計画の見直しは評価をもとに、原則として6ヶ月毎に行なう。また介護保険証の更新時や状態の変化時にも見直し、更新している。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子を職員が個別記録に記入し、計画作成担当者がまとめて、ケアプラン作成に活かしている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>訪問マッサージを利用したり、その方のニーズに応えられるよう支援している。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域のボランティアさんに来ていただいたいた事がある。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>月2回の内科往診がある。また、別のかかりつけ医がいる場合も、その医師と連携をはかっている。</p>	<p>従来からのかかりつけ医を継続している利用者4名の受診には家族が付き添っている。他の利用者は月2回、協力医の往診を受けている。医療連携により毎週1回、訪問看護師が来所し、医師と連携して全員の健康管理を行なっている。歯科医には治療が必要な時に来所してもらえる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	訪問看護師が週に1回訪問しており、1週間の様子や体調の変化などを管理している。			
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	利用者が入院した際には、病院への情報提供を行い、退院後も混乱なく暮らせるよう入院先のカンファレンスなどに出席している。			
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	重度化対応・終末期対応指針を定め、ご家族に説明している。	法人傘下の5グループホーム共通の看取りの考え方やその際の介護体制などについての「看取りに関する指針」を作成しており、入居の際、家族に説明している。利用者が重度化した場合の対応体制が十分整っているとは言えない。	高齢になられた利用者もあり、医療連携体制加算がとられています。指針に沿ったターミナルケアを実施するために、研修や勉強会を行い、職員に対して意識付けをし、知識及びケア方法を共有することを期待します。	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	CPR研修の実施、ミーティングなどで緊急時対応を周知している。			
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	年2回の避難訓練を行なっている。	避難訓練を年2回行っている。防災業者の指導を受けて火災時の対応訓練を行った。また、法人が震災を教訓に防災に力を入れており、充電式バッテリーの使い方や避難時にマイクで外部の人に呼び掛ける方法の訓練を行なっている。災害時に職員が事業所に駆けつける所要時間を実測し、備えを厚くしている。3日分の水・食料、懐中電灯、簡易トイレ、緊急時用のオムツなどを備蓄している。今後、地域の人達にも利用してもらえるように、備蓄を多くする予定である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取扱には十分注意し、利用者一人ひとりの誇りや尊厳を損ねないように配慮している。	職員は入職時に研修を受け、個人の尊厳やプライバシーに配慮したケアを行なうことを心がけている。利用者を「お客様」と言うようにしている。また、理念の「ゆっくり」の中に込めた静かな生活、落ち着いた雰囲気をお大切にしており、大声で話や声掛けをしないように指導している。利用者の個人情報は鍵付きのキャビネットに保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	納得されるまで何度も説明したり、選択肢を提示して、ご本人の希望がひきだせるようなケアを心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、就寝時間などを定めず、特にその日の日課も定めていない。本人の自由な生活を援助している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問理美容の利用で好きな髪形にさせていただいている。カットだけでなくカラーも希望でできる。また、朝更衣する際には選んでいただいている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食はメニューを利用者の好みなどを加味して作成している。また、配膳、調理、片付けは出来る方は一緒に参加していただいている。	朝、夕は食材業者の献立と食材で職員が調理している。昼食は利用者の好みを取り入れた献立を作成し、食材を買いに行く。利用者は食事作りの手伝いや下膳、食器洗い、テーブル拭きを行なっている。食事はテーブル毎に食べ始める。職員2名がテーブルにつき、利用者と同じものを食べながら、話をしたり、介助をしている。訪問時、利用者から「おいしい食事」と言葉があり、楽しんでいる様子がうかがえた。個人に合わせて刻み食などの対応をしている。音楽をかけて静かな食事風景であった。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量・水分量を記録しており、嗜好などであまり食べられない方には他の物をお出しするなどしている。朝晩はカロリー計算している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>声かけ、全介助、一部介助など、その方の状態に合わせて実施している。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄チェック表をつけており、その方の排泄パターンを把握し、定時誘導や声かけをしている。失敗時もさりげなく片付けをするようにして尊厳を保てるよう支援している。</p>	<p>全員の排泄チェック表により、利用者それぞれに合わせて声掛け誘導をして自立に向けた支援をしている。利用者の自立支援を優先するため、失禁時の対応に苦慮されているようであった。</p>	<p>失禁時の対応に努力されていますが、利用者の状態の把握、羞恥心や不安の軽減のための対応の仕方、本人及び他の利用者への影響など考慮して、基本に戻り方策を検討されることを期待します。</p>
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>主治医と連携しながら薬の調整を行い、牛乳やヨーグルトをメニューに入れるなどしている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>毎日全員の入浴は難しいが、ローテーションで1日3～4名ずつ入浴している。ただ、希望などに合わせて時間は関係なくシャワー浴は対応できる。</p>	<p>入浴は利用者の希望を取り入れ、少なくとも3日に1回は入れるようにしている。入浴時間は夕方4時から6時で、シャワー浴や足浴を行なうこともある。入浴を好まない人も多いが、声掛けの工夫をして入浴を支援している。毎日、沐浴剤を使うなどして楽しんでもらえるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日中でも傾眠時には、夜間の睡眠に影響が出ないように声かけし、昼寝などを促している。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>一人ひとりの服薬表やファイルを作成しており、全職員がいつでも見ることができる。また、副作用などを含めた薬の知識についてミーティングなどで確認している。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>それぞれの方の能力や生活歴に応じて家事をお願いするなど役割を持っていただいている。ほぼ毎日の散歩やレクリエーションなどで気分転換をはかっている。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している</p>	<p>気候の良い日はほぼ毎日散歩している。また、食材の買出しに一緒に行っていただくなどなるべく外出できるよう支援している。</p>	<p>天気の良い日には散歩に出かける。善行団地内の公園や、食材を買いにスーパー、ドラッグストア、コンビニにも行く。「イベント係」の職員が月一回、外出行事を企画している。お花見、大船フラワーセンター、江ノ島水族館、長久保公園、近隣のショッピングモールの他、外食にも出かけている。自宅への外泊や家族と一緒に食事、散歩に出かける人もいる。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理ができる方には、財布とお金を持っていただいている。また、買い物の会計時に財布をお渡しして支払いをしていただくこともある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があった際や、不穏時などに電話してお話していただいている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やリビングに季節感のある飾りつけをしており、イベントの写真を貼り出している。採光が良く、日中はとても明るい。	建物が新しく、共用空間は毎朝清掃や換気を行ない、温度や室温にも心を配り、居心地良く過ごせるように配慮している。窓からの採光もよく全体に広くゆったりしている。ユニットにより利用者の写真をはったり、折り紙で飾りつけをしたり、職員のパッチワークの作品を飾ったりして家庭的な雰囲気が感じられる。利用者は窓際のテレビのコーナーで、穏やかに過ごしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席も気の合う利用者同士隣や同じテーブルになるよう配慮している。また、ソファでくつろいでいる姿も良く見られる。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にも、使い慣れた家具などを持ってきていただくよう説明しており、居室にテレビ、仏壇を置いている方もいる。	クローゼット、エアコンが備え付けられており、その他、ベッド、タンス、テーブルセット、テレビ、縫いぐるみ、家族の写真などを置き、過ごしやすい部屋にしている。衣替えや部屋の整頓は、職員が手伝っている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーで作られており、安全に配慮している。また廊下や壁のほとんどの部分に手すりが設置されている。		